

第12回臨床研修医交流会を終えて

と き 令和3年8月28日(土) 13:00～17:00

ところ オンライン開催 (Zoom)

[報告:代表幹事/山口労災病院研修医 森重 拓士]

8月28日の13時から17時の日程で臨床研修医交流会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、昨年度は開催が中止され、今年度はZoomによる開催となりました。第1回目の幹事(研修医)の打ち合わせ会の結果、私が代表幹事を務めさせていただきました。準備段階から当日の会終了まで、多くの方々にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

まず、事前準備に関しては各病院の幹事及び世話人の先生、県医師会の方々とともに4回にわたって幹事打ち合わせ会を行いました。今回は初めてのZoom開催であることから手探り状態でしたが、活発な話し合いができました。各役割分担をそれぞれが全うし、時には県医師会の先生方のアドバイスもいただきながら納得のいくまで自分たちのプログラムを考えることができました。

初めてのZoom開催であることから、交流会の運営に関して様々な不確定要素がありましたが、大きなトラブルもなく開催することができました。例年2日間にわたり開催していたのに対し、今年度は1日間だけの開催といたしました。県内基幹病院の指導医による臨床推論3題と特別講演2題の充実したプログラムになりました。

臨床推論では、まず山口労災病院救急科部長の河村宜克先生にご指導いただき、意識障害の鑑別の難しさについて改めて認識いたしました。次に、山口県立総合医療センターへき地医療支援部部長の横田啓先生からご指導いただき、頭痛の診療とレッドフラッグについて理解を深めることができました。最後に関門医療センター救命救急センター長の松本泰幸先生からのご指導では、救急現場で見落としてはいけない胸痛について一緒に推論することができました。

特別講演1では山口大学医学部附属病院総合診療部准教授の齊藤裕之先生にご講演いただきました。演題は、**外来研修の「型」を身につけよう**でした。外来診療で気を付けることは患者さん自身の健康だけでなく、地域全体の住民の意識が重要であること、また、健康のためには人と人とのつながりが重要であることを改めて認識しました。

特別講演2では大阪大学大学院医学系研究科・医学部感染制御学講座教授の忽那賢志先生にご講演いただきました。演題は、**コロナにまつわるエトセトラ**でした。ケースレポートは新しい発見の基礎であること、また新型コロナウイルス感染症には医学的側面だけでなく啓発活動には社会的側面が重要であることを認識させられました。ほかにも多くの興味深いお話をしていただき充実した講演となりました。

半日の交流会でしたが、高名な先生方からの臨床推論と講演、研修医同士での知識や経験の共有を通して非常に充実した交流会となりました。本交流会の開催にあたって尽力していただいた山口県医師会の皆様方、各病院の関係者の方々に重ねてお礼申し上げます。これから山口県の医療を支えていくことができるように、さらに精進していきたいと思っております。今後とも引き続き温かいご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。